専門学校　ベルランド看護助産大学校　学校誌

Kanade 奏

VOL.03
2021

特集1

看護学科閉科

そして高度専門看護学科へ…

学校生活紹介
ベルランドNOW

ボランティア活動報告

教員の研究活動

にこまろが行く！
サークル調査隊

特集2

Withコロナ時代の学校生活

看護学科閉科に向けて

社会医療法人 生長会
社会福祉法人 悠人会
理事長 亀山 雅男

昨年は、新型コロナウイルスの対応で明け暮れた1年でした。100年に一度という未曾有のコロナ禍の中で、私たち医療福祉従事者は如何に地域住民の命と健康を守るかというBCPの重要性を改めて考えさせられました。

こうした中、今春37回生の学生が卒業します。39年の長きにわたり沢山の看護師が巣立って行きました。生長会、悠人会で活躍している看護師や、他法人で活躍している看護師等、様々な職場、立場で頑張って医療福祉を支えていただいています。

振り返れば、社会医療法人 生長会は1955年（昭和30年）に産声をあげ、1977年に看護学校を設立し、助産学科の開設等を経て、2016年8月に現在の新校舎が竣工し、2018年4月からはベルランド看護助産大学校に生まれ変わりました。このように法人や看護学校の変遷を振り返っても、継続性（sustainability）が重要であることを痛感させられます。

コロナ禍は未だ収束していませんが、危機をチャンス（機会）に変える力強い精神で前進して参ります。引き続き、関係者の方々の御支援を頂きますようお願い致します。

BCP ＝事業継続計画（Business Continuity Plan）

わきまえない看護専門職

専門学校 ベルランド看護助産大学校
学校長 大島 利夫

COVID-19パンデミックは波及効果として普段は目立たない様々な事柄を可視化させました。

開催が危ぶまれたことに焦ったのか、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会会長であった森喜朗元首相が「女性がたくさん入っている理事会の会議は時間がかかります」という暴言を吐いたことで会長辞任に追い込まれました。この騒動をきっかけに、森氏の発言を引用して「＃わきまえない女」のキーワードが世の中を揺らしています。ジェンダーに限らず、わきまえるか否かは個人の生き方と社会の姿に直結することに多くの人が気付いたために議論が活発化したと考えられます。

日本社会は同調圧力が強い特性があります。「わきまえさせる」は強者が弱者を支配するための手段です。子どもの頃から「わきまえる」ことを強いられ続け、慣らされてしまった弱者は強者の意図を忖度して、進んで「わきまえた」態度をとるようになります。

虐待、DV、いじめ、セクハラ、パワハラ、人種差別など、これらすべてに共通した構造です。

医療現場ではどうでしょう。

若い看護師が先輩や上司の看護計画に異を唱えたりしたら、間違いなく彼らは不機嫌な表情をするでしょう。なかには、逆上して「分をわきまえろ」と怒鳴る人がいるかもしれません。しかし、必要な時に言うべきこと、正しいことを言わなければ、看護師は専門職として患者さまを守ることが出来ない場合もあります。大事なことは患者第一に考え、論理的に正しく、看護倫理にかなっているかどうかです。

その一方で、医療専門職は強者の立場になる可能性があることに注意が必要です。

「患者さんのためを思って一生懸命やっているのに、あの患者さんは全然わかってくれない」というような話題は医療従事者間の日常会話によく出てきます。この場合、不満を口にする本人は患者さまに「わきまえる」ことを求めていること、強者の立場から弱者である患者さまを上から目線で見下していることに無自覚です。

「わきまえる」あるいは「わきまえさせる」ということが良好なコミュニケーションの阻害要因であることが分ります。

「わきまえない看護専門職」になるべきです。「わきまえない」人は当然他人に「わきまえる」ことを求めてはいけません。言うべきこと、正しいことは堂々と主張すればよろしい。それに対する反論があれば謙虚に耳を傾けるのは当然です。そして、反論のほうが正しいと判断されれば、自説を取り下げ、場合によっては謝る。

これが専門職におけるコミュニケーションの本来あるべき姿です。

特集 1

看護学科閉科

そして高度専門看護学科へ…

3年制教育に寄せる思い

専門学校 ベルランド看護助産大学校
副学校長　西本 厚栄

8年前、本校に縁があり就任、看護学科29回生の国家試験直前でした。当時の学生のイメージは明るく、夢に向かって進むパワーがあり、それまでの教育経験と比較し、学生と教員の距離が近く、いつも笑顔の絶えない明るさ、素敵な学校だと感じた事を思い出しました。

本校の看護学科（3年制）は1982（昭和57年）に開設し、大阪府内の３年課程教育では14番目の開校で、堺以南では労災、清恵会に次、３番目に開校した歴史ある学校です。この39年間で卒業生数は1,950人、2年課程の302人と併せて2,252人に上ります。生長会・悠人会への就職率ほぼ100%、優秀な看護人材を送ってまいりました。

卒業生中、現在でも703人が本法人で現役として輝き、活躍されています。看護の統括部長や病院の看護部長、臨床のエキスパート、教員として教鞭をとられた方々も多く、素晴らしい事だと感服いたします。この事は、今の「生長会・悠人会の発展には、本校の卒業生が大きな役割を担ってきた」のだと自負しております。

この39年間、看護基礎教育カリキュラムは、平成カリキュラムから３回改正され、大きく変動してきました。高齢化社会に伴う老年看護学の創設、やがて統合分野で在宅看護論の創設や実践的な看護師育成のための夜間実習の経験や複数受け持ち、マネジメント実習等が加わり、教育内容も変化してきました。

本校の教育カリキュラムは、法定の時間や単位数よりも一段と充実した内容で、特に基礎看護学や解剖生理、疾病治療科目、他校ではできない臨床とタイアップした実習のまとめや成果発表、チームステップスや実践演習等といった科目等が組まれておりました。何より臨床と近く、支援が得られ、卒後への導入教育が図れていることが自慢の内容でした。この、本校の充実した3年制看護教育は、37回生の卒業生をもって終止符を打つことになりましたが、今後も現場で大きく花を咲かせてほしいと切に願っております。

2018年に開設した高度専門看護学科（4年制）は、これまでの教育実績の上に、今後の生長会・悠人会へ巣立っていく看護師教育の一層のレベルアップを図り実践力の基礎力をつける目的で開設、更に次年度から新カリキュラムで教育がスタートします。一段と単位数を増加させ、地域や多職種連携、ICT能力や対人関係能力を強化した教育が開始されます。

ICT教育は国の方針でもあり、今春の入学生は全てデジタルテキストとなります。昨年コロナ禍の中で培ったオンライン教育を一層発展させるのが狙いです。膨大な重さのテキストが、チップ一枚に収録され、持ち運べ、多様な活用ができるようになります。

看護師教育は社会の変化と共に変動を続けています。しかし、看護に求められる「対象への温かなこころ、コンパッションと関心や理解」は何時の時代でも不変です。本校は「変革と不変」の両面を大事に教育を行う所存です。今後とも、卒業生へのご支援を頂けますようお願い申し上げます。

看護学科閉科に向けて

ベルランド総合病院
名誉院長　福原 毅

1982年4月に30名の仲間で始まりました。
その年にテレホンカードが生まれました。
カードで電話をかけられるようになりました。
習字の授業がありました。

やがてスマホの時代になりました。
オンライン授業があり、タブレットを使いました。
時代は目まぐるしく動いています。

校舎の近くで桜の花が毎年新入生を歓迎していました。
うぐいすの鳴き声も聞くことができました。
花や鳥で春の訪れを知りました。

手狭であった校舎は広くきれいになりました。
桜の木はなくなりました。
うぐいすの鳴き声は聞かれなくなりました。
自然が遠ざかっていきます。

37回生まで1,950名がともに学び、友を作り、学舎を巣立っていきました。
優しく、親切に、共感する心を持って、寄り添う看護を実践しています。

2021年3月、多くの想い出と、先人、先輩、関係者への感謝の心を持って、静かに幕を下ろします。

社会医療法人生長会の支えた看護教育とその実践

看護学科閉科に向けて

社会医療法人　生長会
社会福祉法人　悠人会
顧問　田口 義丈

この春、ベルランド看護助産大学校看護学科が閉科を迎え、昭和57年の看護学科設置以来39年の幕を閉じます。看護学科の果たしてきた意義と役割を考えると、本当に看護教育の充実向上とその実践を通じて、当法人は勿論、地域社会における医療と看護の充実-発展に重要な役割を果たしてきたと思います。心からねぎらいと感謝の言葉を捧げたいと思います。

社会医療法人生長会の看護教育は、民間病院の中では早い段階から取組み、昭和52年に進学課程(准看護師から看護師を養成)から始まりました。私が入職した昭和53年、当法人の創設者である岸口繁理事長は、「ゆき届いた診療」、「ゆき届いた看護」、「ゆき届いたサービス」の３項目を院是に掲げ、新しい病院運営と新しい病院作りを目指していました。これからは、患者さま中心とした医療や看護の提供が大切と云う事です。

的確で細やかな対応が出来る看護のちからは、患者さまの安心と信頼に繋がります。病院看護の充実･向上は病院運営に欠かせない要素と捉えていました。その思いが昭和57年、ベルランド病院開設と同時に看護学科設置となりました。

岸口理事長が学校開設から校長も兼務され、自ら先頭で看護教育を大切に捉え、学校教育理念を、そして病院では法人理念等も整え、その想いを平成13年に現在の大島学校長に引き継がれています。

開設後の39年間、高齢化の進展や社会変化も大きく、医療も大きく変わりました。疾患は生活習慣病の慢性疾患が多くなり、医療の安全が最重要視され、患者さまの主体性･意思を尊重する医療と看護になり、入院期間の短縮が行われ、在宅医療も進みました。医療変化に合わせ講義内容と時間数も増大しました。大学や専門課程の中でも、いちばん忙しい課程であると思います。

教員にも国立病院関係の三木副学校長をはじめ、石谷先生、荒田先生、岩本先生、牧先生、川中先生、岩井先生から現在の西本副学校長へ、専任教員の充実にも力を注いで参りました。病院の先生方にも協力を頂き、医学の基礎や各科の疾患を講義頂きました。先生方も忙しく、協力頂く苦労も思い出になります。

当法人の成長を顧みますと看護の役割が如何に重要かを感じます。当法人は看護教育の充実とその実践と共にあったと言えます。これまでの卒業生は1950名、彼･彼女らは優しい心と科学的な技術で、地域医療と地域看護の発展に貢献して下さるでしょう。心からありがとう、と申し上げます。

看護学科閉科に向けて

法人本部事務局　看護部
統括部長　田邉 博子

1977年、当法人の創設者である故岸口繁会長の「看護婦の充足が必要、足らなければ育てる」という強い信念のもと、大阪府中看護専門学校として府中病院の東館6階で開設されました。

私は、1980年4月に2年課程に入学し、2年後の1982年に堺市東山への移転が決定したため、府中病院での最後の卒業生でした。現在の第2医局と日帰り手術センターにあった講堂での卒業式は今でも忘れられない思い出となっています。その後、ベルランド看護専門学校への改称や2年課程の廃科等があり、卒業校の名前や課程が無くなるという寂しい経験もありました。3年課程の閉科により、同じような思いをされている卒業生もいると思います。しかし、その時代に求められる看護職を育成するために教育課程や教育内容を検討し、変化をさせていく当法人の看護職育成に対するビジョンは素晴らしいと思います。

私が学んだ40年前の看護基礎教育では、卒業後は即戦力として働くことを求められていました。現在では、看護職をとりまく医療環境や提供体制は大きく変化し、社会で活躍が期待されている場も拡大しています。看護職には対象者や療養環境に応じた、より総合的でエビデンスに基づいた看護ケアを提供していく役割が求められ、知識やアセスメント能力が求められるようになりました。日本看護協会でも、これからの社会・医療に対応できる看護師を育成できるよう、看護師基礎教育の4年制化の実現に取り組み始めました。このような看護基礎教育の環境変化の中、大学と専門学校のメリットを最大限に活かした教育カリキュラムを特徴にした4年制の高度専門看護学科を設立し、2022年には1期生が卒業してきます。今後、高度専門看護学科で学んだ卒業生が幅広い知識と視野を持って臨床現場で活躍してくれることを期待しています。

↓本校舎５階廊下に、旧校舎の壁の一部分が保存展示されています。

看護学科　元教務主任　安井 寛子

2018年には看護助産大学校が誕生しおめでとうございます。

思いおこせば、自立した、そして、看とりに情熱と夢を持った学生を育てたいとの思いから、三年課程の開設準備に携わりました。

当時は二年課程を併設しており、雨のそぼ降る中、府中からベルランドに引っ越しの時、お手伝いをしてもらった事を懐かしく思いだして居ります。

当初、三年課程の路線を敷くべく初年度の学生には、生長会の理念をしっかりと受け継ぎ、勉学と、管理者として、また精神面でも、安定した、やさしさと慈しみを持ち合わせた学生の教育に情熱をついやしたのも、懐かしい思い出です。

いまでは、管理者として、又教育者として、看護界を担う責任者として活躍して居り、その成長に誇らしさを感じております。そして、生長会の教育の基盤を築いたことを確信しております。

これから教育期間が3年から4年へと移行し、その中で医療・看護の奥深い知識を吸収し、幅広く患者さまにかかわってほしいと願っております。

生長会の理念をしっかり受け継ぎ、生長会の一員として、看とりに誇りと情熱を持ち、患者さまに寄り添う看護を目指してほしいと願いつつ、校舎から響く学生の声を聞きながら、時代の流れをかみしめております。

これからの御校の益々のご発展を祈念致しております。

看護学科　元教務主任　芦谷 比佐子

ベルランド看護専門学校が開設された昭和57年12月に入職しました。

当時は全日制2年課程20名、全日制3年課程30名での開校でした。3年課程1回生から20回生卒業までの20年間、看護基礎教育に携わることができましたのは私の誇りです。

入職当時は、故岸口学校長、三木副学校長、故山口看護部長、安井教務主任など、大先輩に看護教育について多くのことを学ぶことができました。20年間で2年課程6回生から10回生約150名、3年課程1回生から20回生約900名の卒業生を輩出できましたことに、幸せを感じると共に私の人生の宝物と言っても過言ではありません。

初めてクラス担任をしたのは2回生でした。担任として何を残せたかはわかりませんが、卒業して30年以上経っている今でも、毎月食事会に誘ってもらい楽しい関係が続いていることも、教員をしていた「ごほうび」かもしれません。新型コロナウイルス感染が広まり、１年近く会うことができていません。

今年は近代看護の基礎を築いた「ナイチンゲール」生誕200年と聞きました。

医療現場の最前線で働く看護師の皆さんはコロナだからと言っても逃げもせず、日々闘っておられる姿に看護基礎教育の重大さを身にしみて感じます。

20年間の教員時代で、2年課程の閉科、3年課程の定員増、カリキュラムの単位制導入など、教育現場はめまぐるしく日進月歩しました。その基礎（いしずえ）を築いた一員として大変嬉しく思います。私は喜寿を迎え、人生百歳を目前に「できなくなることを受け入れる」を心し、前に向かって進んでいます。

看護学科閉科の原稿依頼をいただいたおかげさまで、20年間のいろいろなでき事が走馬燈のようになつかしく思いめぐりました。

本当にありがとうございました。

最後になりましたが、看護助産大学校の益々のご発展を祈念いたします。

学校法人ルンビニ学園　理事長　**浅井 明**

まず、看護学科閉科に際し、これまで２０００人近くの優秀な人材を看護現場に送り出された関係者の皆様方に深甚の感謝と敬意を表します。武田信玄の「人は城、人は石垣、人は堀」を信条とされておられた初代理事長の岸口繁先生を始め、関係者の皆様方が、社会福祉転換・発展の時期にあって、次代のニーズを事前にキャッチしていたかの様にいち早く対応し、キャンパスのバリアフリー化を実現された事等、多大のご尽力のお蔭で今日まで発展を遂げて来られた事は、誠に素晴らしい事だと感心させて頂いております。

閉科に際し、思い出される事は沢山ありますが、まだ、講師控室が職員室内に在った時の事、授業の続きで「熱いハートと熱い技術」という言葉について職員室でお話しさせて頂いていた時、「看護技術」の先生が「末期ケアの段階では『熱い技術』ではなく『冷たい技術』ひいては『冷静な処置』が出来るかどうかがとても重要です。患者さんと培ってきた関係を思うと、中々冷静・沈着な処置をするのは大変なことです。ですがそんな時にこそ、ケースワークで培ったことを確(しっか)り思い出して対処することが、患者さんにとっても大切な事なのではないでしょうか」と大いに話が盛り上がり、結局「熱いハートと冷たい技術」が大切であるという認識に至ったのを思い出します。

そして、その後、私共の家族が生長会でお世話になったり、私自身が入院してお世話になった時に「やっぱりその通りだな」と気付かせて頂きました。この事は今でも授業の中で私が大切にし、学生さん達に伝え続けている事でもあります。

看護学科は閉科になりますが、初代理事長先生の本校に対する「建学の精神」と「現代医療」に対する真摯な姿勢が今後も大学校へと脈々と受け継がれ、益々発展されていかれる事を心から念じております。

看護学科39年のあゆみ

1977年4月 (昭和52年) 大阪府和泉市肥子町1丁目10番17号に大阪府中看護専門学校(全日制2年課程定員25名)を開設

1982年3月 (昭和57年) 大阪府堺市東山500番3号に新校舎を建設し移転

1982年4月 (昭和57年) 全日制3年課程(学年定員30名)を開設 ベルランド看護専門学校に名称を変更

1988年3月 (昭和63年) 全日制2年課程を終了(1回生～10回生 卒業生数302名)

1989年4月 (平成元年) 全日制3年課程(看護学科)の学年定員を50名に増員

1992年4月 (平成4年) 助産学科を開設 ベルランド看護助産専門学校に名称を変更

2008年4月 (平成20年) 全日制3年課程(看護学科)1学年定員を80名に増員

2018年4月 (平成30年) 高度専門看護学科(4年制)を開設 専門学校 ベルランド看護助産大学校に名称を変更

2019年4月 (平成31年) 看護学科(3年制)募集停止

2021年3月 (令和3年) 看護学科(3年制)を終了

ベルランド総合病院　看護部　部長　前原 陽子

ベルランド看護助産大学校看護学科が閉科するにあたり、卒業生を代表いたしまして学校とともにあった活動を振り返り、ごあいさつ申し上げます。

旧校舎を取り壊し新校舎へと移転する際には、学校がなくなるというさみしい思いを話されていた卒業生の方々が多かったことを記憶しております。過ごされた年代で、思い出は異なるかと思いますが、共に看護師を目指し過ごした学校生活をそれぞれに思い起こされていました。

学校のエントランスに貼り出された入試の合格発表をみて安堵し、私の自転車通学がはじまりました。教養学科における華道・茶道・書道などでは、ふざけて叱られたこともありましたが、自分と向き合う大切な時間であったように思います。実習にいくと、講義で教えていただいた先生方から、「それ、講義で話したよね」などと声をかけていただき、患者さまに真摯に向き合い看護することを教えていただきました。実習病院へ向かう途中で、原動付きバイクの足元に置いていたカバンを落としていたことに気づかず、雨の中捜しに戻ったことが昨日のことのようです。そのような私ですが、卒業後は臨床を経て、母校の教員として看護教育に携わりました。

現在では、ベルランド総合病院の看護部長として教え子たちと共に働き、看護について語り合える日々を幸せに感じながら、大学院の頃の恩師たちと毎年、海外の病院や施設を訪問し、現地の方々との交流を楽しんでおります。

ベルランド看護助産専門学校の歴史と伝統は、専門学校 ベルランド看護助産大学校 高度専門看護学科として引き継がれ、さらに充実発展を遂げられることだと思います。日本のみならず海外でも活躍できる看護師が育っていかれることを心から祈念いたします。

府中病院　看護部　副部長　古屋 真奈美

私は、ベルランド看護助産専門学校を12回生として卒業しました。早いもので、卒業から25年が経過しようとしています。看護の道への始まりとなった看護学校では、沢山の思い出があります。特に各論実習では、当時受け持ちをさせて頂いた外科病棟の終末期の患者さまとの関わりを通じて、看護の楽しさを知り、今振り返ると看護の素晴らしさを感じることができるよう教員、実習指導の方々の導きがあったからなのだと思います。また、集団指導の準備のため実習グループで集まり、終電まで準備を行ったこと、実習記録が書けず、気がつけば朝で、机の上で目覚めたことなど様々なことが思い出されます。

故岸口一勇専務理事からは、国家試験前に、学生1人1人に合格祈願の鉛筆を手渡ししてくださりました。当時は病院に就職し、部署に配属されたのちに国家試験の発表がありました。合格発表の日には、病棟まで出向いて頂き、「おめでとう。これからがんばりなさいよ」と力強い声をかけて頂きました。職員を大切する心を教えて頂いたように思います。

これまでの道のりは決して楽しいことばかりではなく、もう続けていけないと思うことが幾度とありましたが、上司・同僚はもちろん、同期や当時の担任・芦谷先生の励ましや支えがあったからこそ、ここまで続けてくることができたと思います。

看護専門学校と臨床での学びは、今の私のキャリアに大きく影響しています。今は臨床の場で看護師を育成する立場となりましたが、これからもベルランド看護助産専門学校の卒業生の名に恥じないよう、成長し続けたいと思います。

最後になりましたが、貴学の今後益々のご発展を心から祈願申し上げます。

ベルピアノ病院　看護部　副部長　西浦 由紀

ベルランド看護専門学校第7回生です。それまでは50人前後のクラスでしたが、なぜか7回生の自分たちだけ30人のクラスでした。

自分たちの学生時代、実習中は今のような学内実習はほとんどなく、月曜日から金曜日9時から17時までと、週5日びっしりありました。楽しい実習もありましたが厳しい実習場所もあり、その厳しい実習場所で個室の患者さまを受け持った時には、その個室に逃げ込むようにずっといた事を思い出します。また、記録や患者さまのパンフレットを作成するのに明け方までかかったこともありました。その時は辛かったですが、今では良い思い出となっています。

就職は、ほとんどのクラスメイトが第1希望の病棟に就職したのですが、自分は希望の病棟には行けず、その当時の府中病院西病棟に配属になりました。その病棟は、広い部屋に20人くらいの患者さまがいて、カーテンもないので処置をするときにはパーテーションを持ってきて処置を行っていました。おむつも布おむつで夜間、お湯をくんで排泄交換にまわっていました。今では信じられない話です。

今まで3施設10部署、管理も含め経験。その中で希望の異動は1度だけでした。ほとんど異動のない同期もいてそれはそれで羨ましく、なぜ自分だけ移動が多いのかと思ったこともありましたが、いろいろな部署を経験するのも悪くないと今は思えます。良い仲間とも巡り会えました。何度か退職も考えましたがここまできました。

看護師になった動機はたわいもない理由ですが、やはり看護の仕事が好きで、現在は誇りを持って働いています。今では管理の仕事も多いのですが、臨床で患者さまにケアをしたり、コミュニケーションをとったりしているときは自分のモチベーションがあがり、楽しく仕事ができているのが正直な所です。

阪南市民病院　看護部　副部長　山下 有紀

私はベルランド看護助産専門学校12回生で、平成8年に卒業いたしました。あれから20年以上が過ぎましたが、現在も無事に看護師を続けています。

学生時代を振り返ると、専門分野の勉強や実習のほかに、金剛登山や学校祭、修学旅行など楽しいことがたくさんありました。しかし看護学生と言えば臨地実習で、本当にしんどかった!という思い出として残っています。

毎日指導者さんから優しく、そして厳しく指導を受け、緊張しながら患者さまのもとへいって勉強させてもらい、帰ったら実習記録と疾患などの勉強に追われる日々。休み前には実習グループの誰かの家に泊まり込んで明け方まで記録をしたり、朝には休みたい気持ちをお互い励まし合い、朝の挨拶だけでも元気にと気合をいれ合ったりして踏ん張る毎日。実習の1年間は記録をしながら寝てしまうことがほとんどで、布団で寝ることがなかったように思います。本当に大変な時間でしたが、そんな辛い実習を乗り越えられたのはやはり、一緒に頑張った仲間と支えてくれた教員の先生、そして優しい声をかけてくれた患者さまや指導者さんのおかげだと思います。あの頃はそうは思えませんでしたが、今となってはキラキラと輝いた、素敵な思い出です。たくさん悩み、学び、喜び、いろんな人と出会っていろんなことを感じることができた学生時代は、私にとって永遠の宝物です。

このような時代を経て看護師となり、今では管理職になりましたが、今でも人との出会いや患者さまの人生から多くのことを考える機会をいただけており、まだまだ学ぶ時間は続いています。これは私にとってとても幸せなことで、途中で投げださずに看護師になってよかったなと、あの頃私を支えてくれた方々に本当に感謝しています。この度、看護学科は閉科となりますが、これからも高度専門看護学科でいろんな経験をして、貴重な時間を過ごしていただきたいです。

介護老人保健施設 ベルアルト　援護長　**中山 美香**

お世話になった先生方、ベルランド看護専門学校卒業生の皆様お元気でしょうか？２学科7回生として卒業させて頂いたのは36年前。2021年の今では、思い出の白亜の校舎もベルランド総合病院も改装され寂しい限りです。でも目を閉じると、私の脳裏には38年前、ベルランドに初めて訪ねた日のことやご指導頂いた諸先生方、実習先のプレハブの更衣室や先輩方等、学生時代が鮮明に蘇ります。18歳からの2年間であっという間でしたが、卒業してかなり時間を経て、本当にかけがえのない貴重な時間だったと感慨深い日々です。

私達は「進学コース」と言われていた２年制のクラスなので、年齢が違い、その中でも私は一番下の年齢で、同期生は主婦や、社会人経験者がおり、どんな時も“若いなー”と微笑ましく見てもらえ、かわいがってもらえたこと、また、聞くことすべてが人生の先輩としての助言で、色々な面で勉強になったことです。研修旅行は子どもさん連れでした。（ちょうど１周年の東京ディズニーランドと鎌倉方面でした）また、必ず終講時に講師の先生とクラス全員で集合写真を撮っていました。後でみるとかなり顔が小さくて。（笑）

同期生は卒業後、職場もそれぞれ違いますが、同窓会では熊本・大分・広島・岡山等から集まるメンバーがおり、出席率はいつもトップのクラスです。今でも３年ごとに話は途切れなく続きます。普段の交流もあり、それぞれ家庭や看護の場で頑張っています。

私は、27年間、ベルランド総合病院で働き、急速な時代の流れとともに心も身体も成長させて頂きました。阪南市民病院では５年間、病院再生に携わる機会も経験し、現在は介護老人保健施設で「パートナーの日常の生活」を重視しながら、看護の力を発揮できる職場で、在宅療養支援に関わっています。同窓生からの「みかりんが法人内で働いてくれていることを誇りに思う」という言葉が心の支えでもあり、励みになっています。

ベルランド看護助産大学校の更なる発展を祈念し、クラスの代表でメッセージを届けさせていただけることに感謝いたします。

サンガーデン府中　援護長　**村中 維佐子**

私が入学したのは1983年4月であり、当時は【ベルランド看護専門学校】でした。あれから平成・令和と時代が流れ、38年が過ぎようとしています。そして、2021年3月をもって【看護学科】が閉科されることは、少々の寂しい気持ちと、母校の進歩になんとも感慨深いものがあります。

第一次カリキュラム改正（1971年）後、教育時間数・実習時間数が大幅に減少されましたが、高校卒業後すぐで、右も左もわからない私にとって毎日不安と興奮が交差し、ある意味、人生の中で最も充実した3年間だったと言えます。授業もさることながら、臨床実習では諸先輩のご指導のもと、日々必死でした。当時の学生記録は、今思い出しても胃痛がするほどで、2年次以降は睡眠時間が3時間程度しかなかった事を昨日の事のように思い出されます。特に私は、所謂『出来が悪い』学生だったので、当時の教員から『日頃使っていない脳みそを使い果たしなさい』と叱咤激励される毎日でした。3年次には、卒業試験、国家試験と看護学生の集大成ともいえる難関がありました。同期の仲間と毎夜徹夜状態で勉強し、先生方の『合格率100%は無理かも』という事前予想を見事に覆しクラス全員が合格したときは、本当にうれしかったです。こうして今、看護職として勤務できているのは、『ベルランド看護専門学校』のおかげです!!感謝しかございません。

現在、援護長という役職を頂き、35年にわたる急性期病院での勤務から、介護系施設へ2020年の春より異動いたしました。新しい環境で、学ぶ事が多く充実した日々を送っていますが、常に着眼大局で状況を判断し、これからも邁進してまいります。

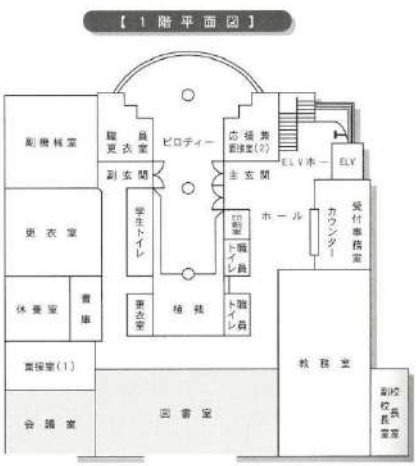
ベルクリニック　看護部　副部長　槙山 久美

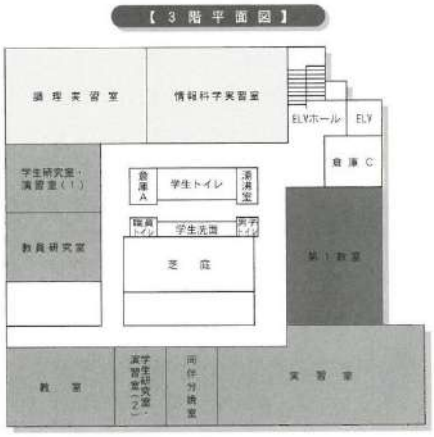
私は急性期病院で30年余りをすごしたのち、介護施設を経て、2018年から健診施設に勤務しております。「医療」「福祉」から現在の「保健」の分野では、健康な人を対象に看護に求められていることは何かを考え実践しています。

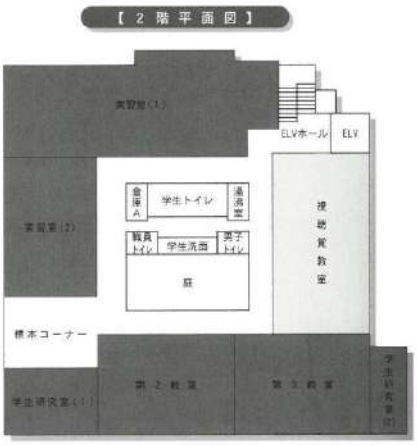
もう、卒業してからずいぶん月日は流れましたが、今でも学生時代の仲間とは定期的に交流があり、曖昧になった思い出話をしながら抜け落ちた記憶を埋める作業をしています。学生時代の思い出は何といっても長かった臨床実習です。2年生の後半から1年以上も続き、毎日が実習記録との闘いです。現在のように、実習グループに1名の教員引率はありませんので、荒野に放り出された迷える仔羊状態でした。そのような状況でしたので、同じ実習グループの学生とは絶対的な連帯感が生まれたものです。臨床に出て学生実習を受入れる立場となってからは、学生が過緊張にならないような環境づくりを心掛けました。いくら年代が違っても母校の学生ということで勝手に親近感を持っていたものです。

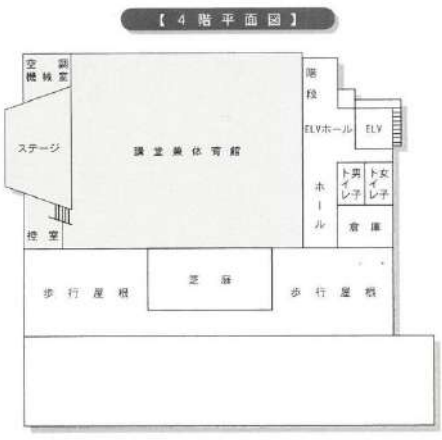
今年度で看護科が閉科されることは卒業生としまして寂しいかぎりです。何年たってもベルランドの卒業生という意識がいつも心の中にあります。またどこかで、新しい教育課程での卒業生と共に働けることを楽しみにしております。

最後になりましたが、長きにわたり学校運営に携わっていただいた皆様に心より感謝申し上げます。









看護学科閉科に向けてのメッセージ　看護学科最終学年（37回生）の思い出

看護学生としての３年間は、あっという間でした。

憧れの看護師に一歩近づき、期待と不安にあふれる入学式でした。しかし、入学後は課題や演習などに追われ、怒涛の日々を過ごし、思い描いていた学生生活と程遠く戸惑うこともありました。そんな中での戴帽式では、これから看護師になることへの自覚と責任を感じ、それぞれの看護師像をもち、初めての実習に行くことができました。

２年生になると、専門的な講義に加え、委員会活動や学校祭などのリーダーの役割を担うこともあり、目まぐるしい日々でした。しかし、３７回生らしさである切り替えの早さや協調性を活かして、学科を問わず、全学年が一致団結し、学校祭や体育祭を開催することができました。この時の達成感は、自分たちの自信につながりました。

3年生になると領域別実習です。新型コロナの影響により、実習の短縮や突然の在宅実習に、困惑することも多くありました。しかしそんな状況でも３７回生らしく、目の前の物事に向き合い、自分たちのできる最大限のことを考え、無事に9クールを終えることができました。

実習中は患者さまとの関わりや、患者さまへの看護一つひとつに“本当にこれで良いのか？”と葛藤し、自分が看護師には向いていないのではないかと思い悩むこともありました。しかし、患者さまとの関りでは、一人ひとりの患者様に真摯に向き合うことの重要性について、身をもって理解することができました。

実習を通して、看護師という職業の素晴らしさを実感したと共に、私達にとっての新たな看護観に繋げることもできました。そしてなにより、このような状況下において受け入れてくださった患者さまや病院・施設の皆様に心から感謝しています。

国家試験に向けた勉強では、友達とも会えず、自宅で一人机と向き合う日々で何度も心が折れそうになりました。しかし、会えない中でも、友達と連絡を取り合い、オンラインで先生方に最大限のサポートをしていただいたおかげで、無事全員が受験することができました。

３７回生は、明るく元気でメリハリのある行動が魅力の素敵な学年だと思っています。学生のそれぞれが仲間の優しさと思いやりの心には何度も救われました。

この３年間の思い出は一つひとつが貴重な人生の宝です。この学校で過ごした思い出や経験をもとに、私たち３７回生はそれぞれが思い描く看護師像に向かって日々前進し続けられるよう頑張ります。これからもご支援よろしくお願いします。

（看護学科37回生 学生代表）

看護学科閉科に向けてのメッセージ　看護学科最終学年担当の教員

看護学科の歴史を重んじるとともに、今日までご指導・支えて頂いたことに心から感謝しております。

田村留美子

39年間多くの皆様方の支援を賜り、誠にありがとうございます。心より感謝致します。今後、高度専門看護学科が地域に貢献する大学校として発展することを願っています。

中嶋和代

「輝く学舎、我等が母校」
看護学科の輝かしい歴史が、今後も未来へと引き継がれることを願います。

前川昌代

37年の伝統を受け継ぎ、更なるVersion upを目指します。引き続きご支援よろしくお願いいたします。

山田 忍

今まで数多くの卒業生を輩出し、医療や介護を支えてくれたことに感謝いたします。

山下幸代

これまで築きあげられた伝統は今後も4年制に引き継がれ、更に看護専門職の発展に寄与できると確信しております。

平川 憲子

看護学科は39年間の幕を閉じ、新しい歴史の一歩が輝かしいものになりますように。

三田衣真

旧校舎で学生時代を過ごし、新校舎で思い出深い私達の看護学科の閉科を見届けました。

大原 智恵

ベル卒の教員に学生時代の思い出を聞いてみました！

実習でパンフレット指導をする時に、指導者さんに褒めてもらえたことが嬉しかった。

毎日友達と教室の後ろの広いスペースで、昼ご飯を食べることが楽しみでした。

修学旅行、ハウステンボスではみんなドレス着てましたね！

楽しかった文化祭。衣装とか、皆の力の入れようがすごかったです。

茶道室でするお茶の授業が大好きでした。お茶菓子おいしかった。

ユニフォーム。私達は「ちゃんちゃんこ」と呼んでいたけど、他学校の子からは「ウルトラマン」と言われていました…

特集 2

Withコロナ時代の 新学校生活

2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今までの学校生活が大きく変化する事になりました。学校での新しい試みの様子をご紹介します。

オンライン授業開始！！

4月の緊急事態宣言発令後、施設利用制限のため学生は登校禁止となり、教育活動がストップした状況となりました。コロナ禍での講義体制を整えるべく、オンライン授業の企画準備のための「オンラインチーム」、運用時のルールを考える「情報セキュリティチーム」、運用時に学生を支援する「担任チーム」の3チームでオンライン授業開始に向けて急ピッチで取り組みました。

オンラインチーム

オンラインチームの重要Missionは、オンライン授業ができるようにシステムを整備することでした。①迅速②安価③利便性が必要条件であり、しかも、双方向での授業や出席管理も課題としてのし掛かりました。

オンラインチームは少数精鋭の6人で構成され、誰もが初めての取り組みであり、その道に精通している専門家もいない中、悪戦苦闘の毎日で立ちはだかる難問に挑み続けました。例えば、web会議ツールは何を選択すべきか、安全性はあるか、出席管理や授業の登録はどうするか、機材は何が必要か……などなど迅速な判断と行動が求められました。

問題が山積みでなかなかゴールが見えづらく苦しい状況の中でも、メンバー1人1人が主体的に前向きに地道に最善・最適を考えながら取り組みを行い、Mission complete。

まだまだ課題はありますが、今後は教職員みんなで乗り越えていきたいと思います。

情報セキュリティチーム

情報セキュリティチームは、文部科学省や総務省のガイドライン等を参照しながら、当校におけるガイドラインを作成していきました。

学生には、

①Teamsにおいてのルールを守ろう

②授業を受けるうえでの３つの禁止を守ろう

③自分と相手を守ろう

をスローガンに、安心安全な遠隔授業受講のルールを示しました。

教員には、遠隔授業と同時にテレワーク導入における情報セキュリティについても共有できるガイドラインを作成しました。

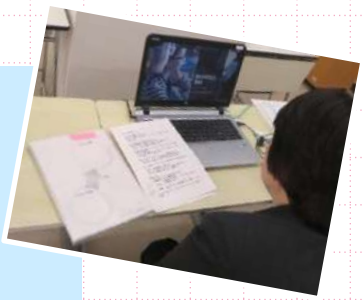
担任チーム

遠隔授業は、学生も教員も初心者同士、手さぐり状態でスタート。わからないながらも、スムーズな導入のための検討を重ねました。

教員・学生それぞれの立場から、配信授業の内容や方法・課題の提示や提出方法の確認など操作を繰り返し模索し、どうすれば学生が解りやすいのか、試行錯誤して実施していきました。

また、学内のWi-Fi環境を確かめるために、教員同士で様々な場所からプレ授業を繰り返し、授業だけでなくWebホームルームも取り入れ学生との関係づくりを継続できるようにしました。

その甲斐あって、コロナ禍での授業を展開することができています。



健康管理と感染予防の徹底!! By保健委員

感染リスクは食事から！

教職員休憩室の様子です。
以前は向かい合わせに座って、講義や実習について相談し合い、楽しい話をしながら休憩していましたが、『一方向で無言の食事』を徹底しています！

どちらの“カンキ”??

予防対策はとにかく『換気』が重要！常に『換気しましょう!!』と学生に投げかけ続けています。
また学生・教職員ともに、WEBシステムを利用し健康状態の入力をしています。
入力忘れに対する『注意“喚起”』の対策もしていました！

知ってる?大阪のこと

レッドステージや緊急事態宣言の発令など、学生に危機感と現状を知ってもらうためにポスター掲示！
学生は、ポスターを見ながら『怖いなぁ』と…
自分と大切な人をしっかり守っています！

みんなで守ろう！ソーシャルディスタンス

グループディスカッションや勉強など、みんなで集まって“ワイワイ”賑わっていたラーニングスペース。
今は、距離を保ちながら学習ができる環境を作っています！

Withコロナの中での実習

厚生労働省より通達された「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師養成所における臨地実習の取扱い等」を受け、今年度は臨地実習の実習展開・学習内容を検討し、実習施設と調整を図りながら対応しています。
感染予防のため、臨地での実習時間の短縮が必要になったり、グループとしての学習活動に制限がかかったりと困難な状況ではありました。
しかし、実習施設の皆様には深いご理解と、限られた臨地での実習が有意義になるよう様々な配慮を頂き、全ての実習を中止することなくすすめることができています。本当にありがとうございます。

受け持たせていただいた患者さまに必要な看護を学内で学習し、演習で実践します。

実習前の、フェイスシールドを着用しての技術練習の様子です。

実習調整者より

実習調整者の使命は、実習で施設・対象・学生の安全を守りながら、臨地実習での教育の質を担保することです。
コロナ禍での実習では出来なくなったこともありますが、逆にコロナ禍だからこそ出来たこともありました。これからも様々な創意工夫をしながら「コロナに克つ臨地実習」を行ってまいります。

ベルランドNOW

学校行事や授業の様子など、学生生活の今をご紹介します

助産

1月12日～1月15日 助産地域実習

例年、助産地域実習として、堺市の保健センター4か所で4日間の実習を行っています。しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響で1か所で1日のみの実習となり、それ以外は自宅＆学内実習へ変更となりました。

自宅では、乳幼児の成長・発達、健康診査の内容や方法について学習を深めてもらいました。学内では、各グループで4か月、1歳6か月、3歳の健康診査を担当し、役割を決めてロールプレイを行いました。また、事例をもとに、乳児の家庭訪問を行うための計画や必要物品を考え、演習を行いました。

保健センターで実習したグループには、実際に学んできたことを発表してもらい、質疑応答でさらに理解を深め気付いたことを共有し、地域での助産師の役割を考える機会となりました。

(助産学科教員)

学生's VOICE

本来であれば、 4日間、保健センターに行って実習をする予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で自宅学習と学内演習での実習に変更になってしまいました。しかし、学内演習では、乳幼児健康診査のロールプレイや、家庭訪問の演習を実践に近い形で取り組むことができ、内容や母子との関わりをイメージすることができました。この演習を通して、改めて地域で活躍する助産師の役割や責任の大きさに気付くことが出来ました。

今回の学びを忘れることなく、今後の助産師人生に活かしていきたいと思います。

赤ちゃん大きくなっていますね★

困ったことはないですか？

助産

12月22日 助産管理 －災害時の分娩介助－

実習がほぼ終了した12月の助産管理の講義では、災害援助の一環として「避難所での分娩介助」のグループ演習を行いました。状況は【経産婦さんが陣痛を訴え、外の被災状況から移動は無理、助産師はあなた一人、看護師さんとボランティアの方は複数名います】という設定です。

普段から周りにある物品を有効活用し、さらに限られた人材と時間の中で、安全で安心できるお産の援助が必要です。それを踏まえ、短時間で環境と物品の準備をし、分娩が無事に終えられるように、メンバーへの依頼やお母さんへの声かけを適切に行っていました。

今年はコロナ禍で実習での経験量が例年より少ない状況でしたが、限られた経験知からでも、基本に忠実に対象に寄り添い協力しながら精いっぱい援助していました。 (助産学科講義担当教員)

とにかく、ここにある物で囲んであげましょう！

お母さんがついてるよ

がんばりましたね☆

おめでとうございます！

学生's VOICE

助産管理の講義の一環で、自然災害時に分娩介助を行うという設定のもと、学内での演習を行いました。

学内にある段ボールやバスタオル、室内用物干しなど、使えそうな物品をかき集め、羞恥心に配慮した目隠しや、安全安楽に産婦さんが分娩に臨める環境を作るため、話し合いながら工夫を行いました。

学内ということもあり必要な物品を揃えるのにあまり苦労しませんでしたが、実際の避難所では、思うようにいかないことも考えられます。その時に備え、必要な物品や、配慮、心構えを学ぶことができました。

高看1年 演習の様子

１年生ならではの微笑ましい風景に、放課後の技術練習があります。今年度は、登校日の削減により、練習時間確保が難しい中でしたが、学生達は「10分だけで良いから患者役お願い！」「今日は、手技の確認させて！あとは、家でトレーニングするから」などと言いながら、技術習得に励んでいました！

“みんなで協力して行う“ことが難しかった今年度ですが、協力し合える関係がクラスの中に出来ていました。同じ方向を目指しているところから生まれる力はすごいですね。

(高度専門看護学科　1年生担当教員)

学生's VOICE

演習では、フェイスシールドとマスクを装着して実施しました。臨地実習での対象への看護実践をイメージしながら頑張っています（＾_＾）

←看護技術演習（BLS）
命を守る！一時救命処置を皆で連携して学びます。

高看1年 ビブリオバトル

2年生とビブリオバトルを行いました。

ここでは、自分のお勧め本を1冊選び、５分間の持ち時間で、その魅力を他の人にアピールします。いわゆるお勧め本プレゼン合戦です。

プレゼンテーションは初々しいものでしたが、それぞれの個性が☆キラリ☆と輝いていました。

本への興味を持ち、今後の学習活動につなげて欲しいです。

(高度専門看護学科　1年生担当教員)

学生's VOICE

初めてビブリオバトルを経験しました。

自分のおすすめ本を、どのように伝えればいいか思考錯誤しながら取り組みました。

この経験を通して、本を読むことの楽しさや“人を通して本を知り、本を通して人を知る“醍醐味を得ることができました。

高看1年 生活援助技術実習

初めて病院という環境を経験し、初めて患者さまと接しました。

今まで勉強してきたことが、こういう風に役立つのだということをしっかり感じられた瞬間でした。

技術の習得に加え、知識を付けたいとみんなが強く思うようになりました。

今回、実習を行うことができたのも、たくさんの方々のご協力・ご理解をいただいたことで実現しました。

学生ともども、とても感謝しております。ほんとうに、ありがとうございました。

(高度専門看護学科　1年生担当教員)

学生's VOICE

私が実習で学んだことは、観察とコミュニケーションの大切さです。

療養環境や病状を観察し、コミュニケーションをとって患者さまの思いを聞くことで、全体像を導き出すことができ、患者さまに合った日常生活援助を提供できるということを学びました。

今回の実習で学んだことを活かし、個別性の看護を提供できるように知識と技術を身に付けたいです。

高看2年 形態機能学演習

２年次の形態機能学演習では、普段何気なく過ごす日常生活の現象や疑問を、既習の形態機能学・病理学の知識を活用し根拠づけることで学びを再確認します。

アクティブラーニングを取り入れたグループ学習と発表では、学生達が主体的に責任と意欲をもって学ぶ姿勢が印象的でした。

プレゼンテーションは「人が感動した時に涙が出る理由」や「あなたが見ている夢の秘密を教えます」など、素敵なテーマが目白押しで、学生達の個性があふれていました。新型コロナの影響で、リモート参加となった１年生からは「日常の事が全て形態機能に繋がっているなんて、とても勉強になった」「超リスペクト！２年生のプレゼン力って凄い！」という感想が上がり、お互いに良い学びの機会となりました。

(高度専門看護学科 2年生副担任)

高看2年 学習会

ホワイトボードで説明中…

今年度の2年生は、2種類の学習会を実施しています。教員がテーマを決めて実施しているものと、学生が自由参加で構成しているものです。

それぞれの学習会で、参加メンバーは違いますが、一人一人のやる気につながっていると感じます。

(高度専門看護学科　2年生担任)

学生's VOICE

学習会では、形態機能学の復習や、模試の解説、試験前の勉強会などを行っています。先生は学生の発言を促してくれるので、一方的に「聞く」だけでなく、質問しやすい雰囲気です。

何回でも説明してもらえるので、あいまいだった知識が定着し、勉強するのが前より楽しくなりました。

『わからないことがわかるようになる』ことで、「やる気」にもつながっています。

高看2年 戴帽式

学生's VOICE

新型コロナウイルス感染症の流行により、本来の日程より遅れて戴帽式を実施することになりました。その間、戴帽式について2年生全員で学びを深め、自分自身を見つめ直す時間ができました。

感染症対策や時間短縮のことも考え、看護師になるための決意を誓う素晴らしい式典になるように、プロジェクトメンバーを中心に2年生全員で、戴帽式を作り上げました。

全員で取り組んだことで学年の結束力も強まり、思い出に残る戴帽式になりました。

高看2年 音楽発表会

２年次では、芸術に触れ、人々の文化や習慣・歴史に関心を持つことができ、感性をみがくことや、芸術による癒しの効果について体験するために音楽を履修しています。音楽を通して表現力及びチームワークとリーダーシップを養っています。そして音楽発表会では、共同作業の大切さを身につけながら、歌やダンスなどそれぞれが自由に個性豊かに自分を表現しました。

(高度専門看護学科　2年生担当教員)

学生's VOICE

発表では初めて人前で踊ったり、歌ったり、演奏したりしました。私は音楽発表会を通して、仲間と協力してひとつのものを作る楽しさを改めて感じました。コロナ禍の今は、こんな機会は少なくなっていますが、感染予防をしながらも、この授業はほっとする時間となりました。初めての経験で、緊張もするし恥ずかしかったですが、とても楽しくて、良い思い出になりました！

高看3年 健康状態別実習

実習に向けての演習での話し合い

今日の振り返り中

この実習の目的は、『あらゆる健康状態にある対象と家族を統合的に捉え、その状況や場に応じた看護を実践する基礎的能力を養う』と『対象をあらゆる療養の場へつなぐための多職種・他部門における連携について理解できる』としています。

実習での経験を通し、様々な健康状態にある対象者様の目指すゴールを理解して、看護を実践することの必要性を学ぶことができていました。また、そこで看護を実践されている看護師・多職種の方と関わることで、より広い視野で看護師の役割を考え、看護を深める機会となっていました。

(高度専門看護学科　3年生担任)

学生's VOICE

3ヶ月間の実習を通し、様々な患者さまと関わらせて頂きました。

自分ができる看護、患者さまのニーズは何なのかを考える中で沢山の困難もありましたが、教員や指導者さんのアドバイスやグループメンバーの支えがあり、実習を終えることが出来ました。また、看護学生として・人としても成長できたと思います。

この経験をもとに対象に寄り添える看護師を目指して頑張っていきたいと思います。

学生's VOICE

各健康状態に応じて変化する対象を捉え続け看護を実践することは、多くの知識や技術が必要となるため、困難に直面することが非常に多かったです。しかし、患者さまやそのご家族に笑顔で「ありがとう」と言って頂いた際に、自分の看護は間違っていなかったのだと嬉しく、やりがいを感じました。

実習での多くの学びを活かし、今後のより良い看護の実践に向けて日々精進です。

高看3年 HR活動「看護観発表」

毎年、学内で修得した知識・技術・態度を、実習という看護活動の体験を通して、看護に対する見方、考え方を明確にするよう『今の私の看護観』をテーマにレポート作成し発表しています。

学生個々が、今持っている看護観を明確にすることで、看護師としての誇りやアイデンティティの確立につながることを目的に取り組んでいます。これからも、経験を重ね、自己の看護の基盤となる『看護観』を育んで欲しいです。

(高度専門看護学科　3年生担任)

学生's VOICE

長期間の実習を終え、見えるものが大きく変化した様に感じます。目に写ってはいても見えていなかったもの、 そもそも視野に入れることができていなかったもの、それらを捉えることが少しできるようになった気がします。

看護は一方的に行うものではなく、関わりのなかで、患者さまがどう感じているのか、その想いを受け取ることが重要だと実感しました。それを踏まえて何が出来るのか、これからも考え続けていきたいです。

学生's VOICE

約3ヵ月間の領域横断別実習を経て、様々な患者さまに出会い関わっていく中で、多くの貴重な経験をすることができました。

看護観を発表し、他の人の看護観を聴講することで、いろいろな価値観にも触れる時間となり、この経験をもとに今自分が考える看護とは何かを見つめ直し、今後に活かす機会となりました。

看護3年 領域別臨地実習

今年度はCOVID-19の影響で、臨地実習の日数が縮小されました。

学内実習では課題学習に取り組み、シミュレーション演習も実施し、各領域で工夫しながら学びを深めました。

臨地実習では、様々な感染予防対策が実施され医療現場が多忙を極める中、臨地実習指導者の方々を始め、多くのスタッフの方々に丁寧なご指導を頂きました。

学生自身もそのよう状況の中での臨地実習の日々を貴重な時間・貴重な学習機会であると自覚し、大切にすることで、多くの学びと経験を得ることができました。また、パートナーへの“最適な看護”について考え、看護実践する日々の中での様々な体験・経験は、「看護師になる」ということへの想いを強くさせました。

(看護学科　3年生担当教員)

看護3年 看護観発表会

1年間の領域別臨地実習の総まとめとして“私の看護観”について、発表会を実施しました。

限られた時間の中で今までの看護実践を振り返り、自らの看護観をまとめるのは大変でしたが、出会ったたくさんの対象者さまに思いを馳せ、「その人らしさを大切にする」や「患者さま・ご家族さまに寄り添う」といった、それぞれの看護観を明確にすることができました。

これからも各自の看護観を温めながら、看護師として成長していくことを願っています。

(看護学科　3年生担当教員)

看護3年 国家試験に向かって

４月から、「離れていても心は一つ」のスローガンのもと37回生全員で支え合い、国家試験に向けて学習をしてきました。

臨地実習も終了し、第110回看護師国家試験まで残すところ75日。37回生全員で川柳カレンダーを作成しました。それぞれの学習意欲も向上し、真剣に学習に向き合う姿勢が見られ、冬期休暇に向けて更に気持ちを引き締めました。

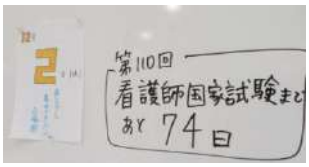
年始からのCOVID-19の感染拡大を受けて、自宅で個別に学習に取り組むことになりました。日々、一人だけで自分自身と向き合い続けることは、胸の中に心細さや学習方法についての悩み・不安などを生むことになりました。

そのような状況に対して、メールを通じた教員とのやり取りや、オンラインを利用したホームルーム活動、クラスの仲間達との情報交換会を定期的に実施しました。久しぶりに仲間と顔を合わせ、思いを共有する事で安心した様子でした。また「毎日しっかり勉強してるよ」という仲間の発言に刺激を受ける事もたくさんあり、学生間でのやり取りは何よりもの動機づけとなっていました。

国家試験前日ガイダンスでも、画面の奥から「頑張ってきます！」という力強い言葉が聞けました。

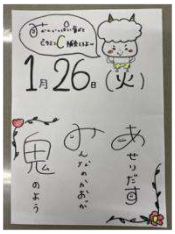
全員が良い結果を得られることを祈っています。

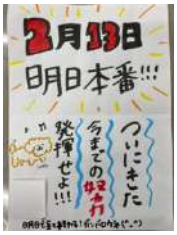
(看護学科　3年生担当教員)



川柳カレンダーとは…

国家試験までのカウントダウンとして、ひとり１日、国家試験に向けての気持ちを川柳に込めました。





看護3年 助産

3月5日　卒業式

助産学科教員より

助産学科29回生・23名が無事卒業の日を迎えることができました。

今年度は、新型コロナウィルス感染症の影響で、入学後すぐに自宅学習となり分散登校を経て、平常通りの授業ができるようになったのは6月でした。過密な助産学科のカリキュラムで、1日でも授業ができないのは非常に痛手で、教員一同なんとかしなければと、必死で助産技術の画像教材づくりやオンライン授業に取り組みました。オンライン授業ではパソコン操作をマスターするのに苦労しましたが、画面に映る授業に参加している学生の真剣な表情に励まされ、なんとか乗り切ることができました。

学生にとっては、学習面でもプライベートでも制約の多い1年でしたが、人との関わりが制限されているからこそ、相手を思いやる気持ちや創意工夫する力が培われたと思います。

助産師の道を踏み出した学生たち。これからの新しい時代に即した助産を切り拓いてくれることを願っています。

看護学科教員より

令和3年3月5日（金）、看護学科最後の37回生78名が卒業しました。時間短縮等の新型コロナウイルス感染症対策を講じて、来賓・保護者の参列を制限し挙行いたしました。

今年度は制約の多い年でした。3年次の実習は1ヶ月遅れの5月からの開始となり、かつ途中で実習形態の変更があり継続できるか不安もありましたが、全員が無事に乗り切ることができました。コロナ禍のなかで皆が健康管理に努め、より一層命の大切さ，尊さを深く感じた1年間でした。

卒業生の答辞は、在学中に学んだこと、実習等の様々な経験、3年間一緒に学んだ仲間の大切さ、支援してくださった関係者のお陰で成長できたことなど感謝の言葉を述べていました。教職員は、これまでの学生の様子が目に映り感無量となりました。

看護の仕事は、ますます高度化・複雑化していきます。患者さまの立場に立った看護ができるように自己研鑽に励み、活躍できるような看護師へと成長していくことを願っています。

植樹式が行われました

卒業記念品である『桜の樹』の植樹式が、今年も卒業式前日に行われました。桜の花ことば「優れた美人」や「けがれなく心が清らか」のように、優しさと美しい心を持ち続け、温かくパートナーを包み込めるような看護者になれるよう日々成長していきたい、という思いが込められています。

この桜の樹も5本目になりました。みんなの成長を見守り続けてくれることでしょう。　（学校誌委員）

ボランティア活動報告

例年と違い、コロナ禍の中で私たちができることを考え「ちょボラ」を推進しています。

「ちょボラ」とは、ボランティア団体に入ったり、被災地に行くといったものでなく、日常の中でできるちょっとしたボランティアのことです。

「いつでも・どこでも・誰にでも・・・細ーく、長ーく」をモットーに自分達にできることを勧めています。

その時の状況を判断して“自分ができることを誰かのために貢献できる”という素晴らしい活動をこれからも支援していきたいと思います！

ボランティア推進委員会

“ちょボラ“をカードに記録しよう！

誰かのために、何かのために・・・行ったことは素敵なこと

日付	内容	日付	内容
11/1	ゴミ出した(学校)	/	
11/8	食器回収した	/	
11/19	ご飯作った(家族分)	/	
11/29	親の[illegible]のため車を運転した	/	
12/2	弟にご飯作った	/	
12/2	弟のテスト勉強見た	/	
12/3	男子更衣室のゴミ捨てた	/	
/		/	
/		/	
/		/	

看護学科3年生のJ.Tくんの実際のカードだよ！

教員研究紹介

2020年度の教員の研究活動として、２つの学会に参加し、８演題の発表を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響により、学会はオンライン開催となっています。

上野妙子先生が、日本看護学会論文集へ投稿した論文の内容をご紹介します。この研究は、生長会の学術貢献賞を受賞しました。 (学校誌委員)

★学会発表

日本看護学教育学会第30回学術集会
『看護学実習に臨む学生にグループ・アプローチを試みて』 『看護学生の最終学年次における社会人基礎力の変化の検討』 『看護学実習と自己調整学習方略・学業的援助要請の関連』
第51回 日本看護学会学術集会
『看護学生の医療安全意識と日常生活スキルの関連性についての検討』 『看護学生の社会人基礎力に与える影響についての検討』 『インシデントの情報共有が看護学生の安全意識に及ぼす影響 ～学年進行による医療安全意識の検討～』 『看護学生の臨地実習でのインシデントの発生回数と学生の特性の検討』 『看護学生の自己調整学習方略に与える影響についての検討』

★投稿論文

日本看護学会論文集
『看護学生の学年進行による日常生活スキルと医療安全意識の検討』

研究テーマ

看護学生の学年進行による日常生活スキルと医療安全意識の検討

看護基礎教育では、医療安全教育の基礎的知識の習得とともに、コミュニケーション能力の向上が求められている。

今回、私たちは、看護学生の日常生活スキルと医療安全意識の学年進行による相違について検討を行い、看護基礎教育における医療安全教育について示唆を得ることを目的として実施した。

その結果、日常生活スキルと医療安全スキルが学年進行とともに変化し、3年生での学び（看護学実習）が学生にポジティブな影響を与えることが示唆され、看護基礎教育の特徴である看護学実習の意義が再認識された。

高度専門看護学科　専任教員
研究者代表
上野 妙子

にこまろが行く！ サークル調査隊

アマチュアダンス サークル DURA

昨年度は学校祭で、先輩や先生達と一緒に踊ったり、ワイワイ楽しく活動しました。今年度も新入生歓迎会や学校祭でダンスを披露する予定でしたが、コロナウイルスによる感染拡大防止のため思うように活動ができていません。

そんななかでも新しいメンバーが加わり、現在、約30名で活動しています。今後、どのように活動できるかはまだわからないですが、できるだけ楽しく活動できるように予定を立てていきたいと思っています！！

“ダンスができる・できないに関係なく、楽しく活動できる”をモットーに、今後もコロナに負けず、楽しく活動できたらいいなと思います 😊

高度専門看護学科２年生　DURA部長

しっかりディスタンスをとって、楽しく縄飛びダンス♪

編　集　後　記

2020年度は新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言に始まり、いつもとは異なった一年となりましたが、学校誌「奏」第3号も無事に皆さまにお届けできたことを大変うれしく思います。

今年度は、看護学科(3年制) 最後の年となりました。おかげさまで、看護学科最終学年となった37回生を全員無事に送り出すことができました。看護学科閉科にむけて原稿執筆を快諾して下さった、講師や先代の教員、卒業生の皆さまに深く感謝申し上げます。

2021年4月からは高度専門看護学科(4年制)と助産学科の2学科となります。現教育と並行しながら、2022年4月からの新カリキュラム始動に向けて教職員一丸となって取り組んで参ります。今後とも本校の教育にご理解、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。　（学校誌委員）

ベルランド看護助産大学校 学校誌　奏

Kanade VOL.03

2021年3月発行

編集：ベルランド看護助産大学校学校誌編集委員会

発行：専門学校　ベルランド看護助産大学校

〒599-8247　堺市中区東山500-3

TEL：072-234-2004

※学年の表記は、すべて2020年のものです